

似合うカラーから始まり、人を活かすカラーへ 株式会社W.A.Bカラースクール

「爽やかなパープルの外壁が印象的な W.A.B カラースクール。2階の教室へ訪れると「こんにちは」と穏やかな笑顔で迎えてくれたのは代表取締役の高下みどりさんとチーフマネージャーの横尾佐和子さん。教室前の共有スペースは居心地がよく、生徒さんはもちろん、卒業生も気軽に訪れて交流する場になっている。

関西初のカラースクールを設立

ご主人の高下慶三氏が29年前にスクールを設立。もともと社寺建築に携わる慶三氏は、仕事で大切な意味をもつ「仏教学」を学んでいた。そこで自然に「生きる意味や目的」、「使命」について考えるようになっていったという。そして、スクール設立前から漠然とではあるが「これからは女性の時代。女性が活躍するために何か役立てられないか」と思うようになる。一方で、社寺建築の仕事を通じ、「建築と色」が密接な意味をもつことにおもしろさを感じていた。そんな時に偶然参加したパーソナルカラーのセミナーで、このふたつが結びつく。これが関西初のカラースクールの誕生だ。



よりの確なアドバイスができる独自のカラーシステムを確立

パーソナルカラーとはアメリカで生まれた4シーズンカラーシステム(イシュタルクルールカラーシステム)で、似合う色を診断するもの。鏡の前で色鮮やかなカラードレープを当てながら、その人の肌や目、髪の色や特徴から似合う色を導き出す。このパーソナルカラーと出合った瞬間に「女性の職域を新たに開拓できる可能性がある」と感じ「これだ」と閃いたという。後は即実行へ移すのみ。セミナーの講師がもつライセンスを買い取り、講師として招き、あっという間にスクールを開始。当時カラースクールは東京が中心で関西初だったため、講座は人気を集めた。6ヵ月間のパーソナルカラーアナリスト養成講座に100名ほどが入学したとか。2年後にはバブル景気が訪れ、女性がおしゃれに積極的になったこともあってパーソナルカラーは一躍注目の的。しかし、似合う色を見つけるためには自分と向き合うことが大切で、色は内面を磨くために活かせるものでもあるのに、表面的な似合う色にばかり注目され、ジレンマを感じていたようだ。



講師や企業とのコラボレーションで活躍するチーフマネージャー横尾さん。授業は和やかな雰囲気

東洋人向けのオリジナルカラーシステムを開発する

開校から6年後、肌の色や目の色、髪の色など日本人とは異なる欧米人向けのカラーシステムに限界を感じるようになる。そこで、同校は東洋人向けに独自に開発し、13パターンに分類するイシュタルクルールカラーシステムを確立した。そして、色彩分野別に講座内容を拡充し、文部省色彩能力検定主催者の(社)AFTの指定校登録をするなど、色彩を感性のみで捉えるのではなく、資格取得によって系統的に色彩理論を学べる講座を作る。地方の方からの要望もあり、翌年には色彩通信講座を開講。バブル景気は弾け、折しも資格ブームのまっただ中。多くの合格者を輩出し、(社)AFTから1996年、1999年、2000年は表彰を受けるほどだった。

そして、着物の会社や車のメーカーからカラーコンサルティングの依頼が飛び込むように。ほかに、文化サロンでのカラー診断講座や百貨店の社員教育など、同校のカラーアナリストの活躍の場は増えていく。しかし、順調に見えたが、それだけではなかった。「色は感性的な部分があるので、アナリスト同士で意見が異なることがありました」と代表取締役の高下さんは振り返る。1994年、慶三氏は誰が診断しても同じ結果がでるようにとコンピュータでカラータイプを判別するシステム開発に乗り出す。1年をかけて1000人以上のデータを集め、岡山の有名大学の教授と一緒に研究を重ね、マイコン搭載測色計「セ・ヴィ マシン」を開発。株式会社コニカミノルタに製造を依頼し、完成した。マイコン搭載測色計を利用することにより診断のブレはなくなった。「診断を受けられた方のお顔を見ると明らかでした。みなさん納得されて、笑顔で帰られる姿を見るとうれしかったですね。」



肌・目・髪の色味の違いを数値化する同社オリジナルのマイコン搭載測色計「セ・ヴィ マシン」

人格形成をめざすパーソナルカラーセラピスト講座を開始

パーソナルカラー診断が安定化し、いよいよ開校当初の思いにあった内面を磨ける講座を開発する。1995年にはカウンセリングでクライアントの内面にふれ、「なりたいたい自分」を一緒に見つけるイメージアナリスト養成講

座を開始。そして、翌年には人との関わり方を学ぶことで人間力を磨けるパーソナルカラーセラピスト講座を開講するなど、続々と心理学やカウンセリングなどを取り入れた体験的な講座を展開。女性が会社や家族との関わり合いの中で、円滑に生きる一助になればという思いが講座になった。現在、全国に5000人以上のアナリストを輩出。カラーを学ぶことで日常を楽しみ、仕事に活かしている人はもちろん、結婚出産後もカラーの仕事に携わる女性は増えている。

人のためを思う風土が新しい出会いを呼ぶ

代表取締役の高下さんは開校当初から携わられていたものと思っていたが尋ねてみると、「私はずっと専業主婦だったんですよ」と意外な言葉が返ってきた。「1995年頃に、主人から電話番号でいから手伝ってくれ。講座もとにかく受けてくれと言われて、それからなんです。そして、目から鱗が落ちるまでがあったという。「今まで暗い色の服を好んで着ていたのですが、私に似合うのは明るい色だったんです。すぐに服を全部似合う色に変えたら、主人が見ても私と気づかないくらい変身して。周りから「似合うね」と褒められるとうれしかったですね。似合う色を身につけるとこんなに違うのかと色の魅力を実感しました」。その後、高下さんがスクールの入学説明を行うと100%の確率で入学していくことに周りは驚きを隠せなかったとか。現在チーフマネージャーとして働く横尾佐和子さんの入学説明も高下さんだった。「営業的なトークが一切なくて。どんなお仕事されているの?じゃあコレが役立つわね。こういうこともできるわよ。というように相談に乗ってもらっている感覚で。ここなら安心できると感じました」。入学説明ではその人が色を勉強したらどのように役立つかを考えて話していただけ、という高下さん。その想いは変わることなく、生徒同士や卒業生同士の出会いを結びつけている。アクセサリを作るのが好きな卒業生にビーズアクセサリ教室を希望しているサークルを紹介したり、セレクトショップを経営する生徒さんのお店で、似合う服を選ぶ授業を行ったり。何気ない会話から、さまざまな展開が広がっている。

2008年、創立者の慶三氏は高下さんへ代表を譲り、講師として講座を受けもつ傍ら世界各国で仏舎利塔を建てる仕事やボランティアに飛び回っている。社会のニーズに柔軟に対応し、進化してきた同校だからこそ、女性ならではの感性で運営できると感じたからではないだろうか。

おかげさまの精神が仕事の原動力

色に関する相談から、百貨店のアドバイザー養成講座の開発や住宅設備会社のイベントで行うキッチンの色選びセミナーやパーソナルカラー診断、和菓子屋さんのパッケージ提案、ブライダルのコーディネートなど、多種多様な業種とのコラボレーションが形に。ある企業では新入社員研修に導入され、パーソナルカラーによるスーツやネクタイ選びで、第一印象をよくするなど、今までにないアプローチに喜ばれたことも。小学校のPTAからの依頼で子どもの色彩心理についての講座などを行ったこともある。



「企業とのコラボレーションではどこで困られているかに合わせて個々にご提案しています」と横尾さん

今後の事業展開について聞いてみた。「いつもお仕事や講座をさせていただけることをありがたいと感じています。もっと積極的にしていければいいのでしょけれど、ご相談いただいた方や会社にとってカラーが役立つ一番いい方法をご提案することしかできないんです。今後は、心理学も活かしたご提案もしていければと思っています」と高下さんは朗らかに語ってくれた。今後も力まず人のためを考えた提案をしていくのだろう。

W.A.Bカラースクール株式会社

代表取締役 高下 みどり

〒550-0006
大阪府大阪市西区江之子島1丁目8-17 2階
TEL: 06(6479)0057
FAX: 06(6479)0058
http://www.color-school.co.jp

【事業概要】色彩関連教育、調査、企画

事業(色彩常設講座の運営、色彩通信講座の運営、特別色彩講座の運営、遠隔地集中講座の開催、受託色彩講座の開催、色彩教育、販売促進、自己啓発プログラム講師派遣、色彩市場調査など受託研究)

